発　行　2019年11月12日
発行者　日本笑顔プロジェクト本部
代表 林映寿
〒381-0211 長野県上高井郡小布施町
雁田676 浄光寺内 電話：026-247-3924
制　作　燕游舎

笑顔の

台風19号災害

復活農園大作戦

日本笑顔 JapanSmileProject

台風19号での千曲川の氾濫は、河川敷や沿岸の畑を多く襲いました。県や市町村での復旧支援体制づくりが進む中、日本笑顔プロジェクトでは「民間にこそできる支援を」と、2019年11月10日にボランティアを募り、小布施町の果樹農家・本間雅人さんのリンゴ畑で排土活動を行いました。

リンゴを酸欠から救おう！

台風19号の発生から約1カ月。小布施町の果樹農家、本間雅人さんのリンゴ畑で復旧に向けた排土作業を行うことになりました。

事前準備として、日本笑顔プロジェクトの林映寿代表は、小布施町社会福祉協議会から角スコップ、剣スコップを、また本間さんからは休憩時に椅子代わりとして使うリンゴのコンテナ30個を借用する段取り。併せて、日本笑顔プロジェクトが募った炊き出しボランティアチーム「笑顔のホットステーション」メンバーが、当日のお茶と昼食の手配を担当。

排土作業については、林代表が個別に連絡・依頼し、これに応えて町内外からボランティア30人が集結しました。

朝9時、小布施町役場前にボランティアさんが集合。千曲川河川敷の畑に入るにあたり、まずはボランティア活動保険への加入手続き。お手洗いを済ませると、それぞれの車、軽トラックに分乗し、5分ほどで目的地へ移動しました。

春は花見客で賑わう桜並木を抜け、堤防脇へ車を停めると、早速ゴム長靴やゴム手袋、マスクを装着し、スコップなどの道具を準備。

一帯は高さ5〜6mの支柱が見えなくなるほどの冠水をしたエリア。一面泥に覆われた中を、重機が入ることのできる最小限の通路が数日前に開いたばかりでした。車を置くスペースは潤沢でないため、少し離れた土手に車を停め、軽トラ3台の荷台に8人くらいずつの相乗りで畑へ移動。泥が少しずつ乾きはじめた通路を軽トラが通過すると、赤茶色の砂煙が上がります。畑内は、人が歩くと足跡がはっきり残るくらいの湿り具合でした。

左）
畑内の泥は徐々に水分が抜けてひび割れていました。

右）
青く変色しているのが還元反応で酸欠状態となった部分。

まずは林代表から、本日の作業の説明。集まった30人が、5〜6人ずつのチームに分かれ、リンゴの木を1本ずつ救出していくという段取り。

畑を覆う泥土は、水を含み、粒子も細かいため、その状態が長く続くとリンゴの根が酸素を補給できなくなり、酸欠状態が続くとやがて枯れてしまう危険があります。

泥土の堆積は、浅い箇所で10cm、深い箇所では30cmほど。その断面を見ると、泥土の底部には青色に変色している部分がありました。これが酸欠の印。酸化の逆の「還元反応」が進んだ結果です。酸欠が続くと、土そのものも腐敗が進み、そのためか一帯には独特のにおいがたちこめていました。泥土から出てきたミミズも、還元反応が起きた箇所よりも上へ避難してはいたものの、ぐったりとして元気がなさそうでした。

一刻も早くリンゴの根に酸素補給をしなければならないので、幹の周り、半径1m（若木や苗木は半径50cm）を目安として泥土を除去します。1本をやり終えたら次の木へ移動。1チームあたり、本日の目標は10本ということで、早速作業をスタート。

本間雅人さんのリンゴ畑。重機が先に入って通路を開け、そこへ軽トラで乗りつけ、作業に入りました。

当日のスケジュール

9時00分	役場集合・畑へ移動
9時30分	作業開始
10時30分	お茶タイム
12時00分	ランチタイム
13時00分	作業開始
14時00分	お茶タイム
15時30分	終了・解散

現場での工夫さまざま

リンゴ畑の中へ入ると、泥土の表面は一様にひび割れて無数の亀裂が入っていました。この亀裂にスコップを差し込んで剥がしていく要領で泥土を除去していきます。

ここで、排土作業ボランティアのみなさんからの体験談・感想をご紹介します。

「欲張ってたくさん土を掻こうとせず、できればブロックで細かく移動させたほうが楽だと思います。鍬（くわ）があれば、剣スコップとペアになって、スコップでほぐして鍬で掻く、というのも良いかと思いました。

中腰の姿勢がつらいので、腰を低くしてスコップを水平に動かすのも良いと思います。」

「道具については、1.鍬が結構良い。シャベルに土を盛り、1m先に掃き出すのはかなり力が要ります。そこで、シャベルで土をほぐして、それを鍬で外側に引っ張りだす（掻き出す）ことは、楽にできそうだからです。シャベルを扱う人も、泥土をほぐすのみで掃き出す作業が少なくなります。

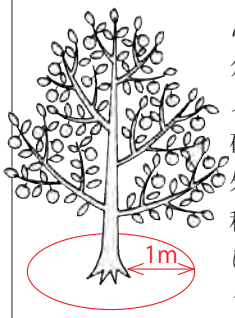
2.小さいシャベルが結構良い。全長1m弱のシャベルは扱いやすく、小回りもきくから。

3.園芸用スコップも使うと良いかも。今回のようにある程度土が固まった状態だと、普通のスコップでざっくりとほぐした後、園芸用スコップ

を使い、一つひとつの塊を外側に掃き出すことは楽にできそうだから。」

「泥の除去については、多少手間がかかっても疲れにくい方法を試行錯誤しながら掘ってみました。一度に取り除く泥の量を少なくして軽い量を回数こなしていくほうが疲れにくいと思います。」(図①～④)

「やってみて思ったことは、1. 最初に、範囲の外枠をスコップで彫っていく（図参照）。2. なんてったって剣スコとクワ。角スコはツライ……。3. 剣スコで上の泥の層を細かく砕いていく。この段階では外側に出さない。4. 3の工程でできた泥を鍬で外側に掻き出す。5. 木一本につき、スコップ3人、鍬3人いるといい。適度に役割を交代しながら。」



なお、5～6人ずつのチームで作業をすることにしたのは、「そのほうが達成感を感じられて励みになるし、それぞれの都合で途中参加・早退する人がいても、それだけの人数がいればなんとか補い合えるから」と林代表。

リンゴ廃棄の決断は「信用を守るため」

この日、作業に入った畑には、リンゴの木が120本ほど。まさに収穫が始まろうとしていたシナノスイートやシナノゴールド、ふじが栽培されています。木によっては鈴なりの実が枝いっぱいに残っていました。傷がついたり腐りはじめたりしているリンゴもありますが、外観だけを見れば食べられそうな実も。

半径1mを目安に、木の回りの泥土を除去。作業の進め方は各チームでいろいろと工夫していました。

「青果としては出荷できなくても、ジャムなどに加工すれば使える」という話も聞いたことがあったので、本間さんに伺ってみたところ、「傷ついた箇所などから泥が中まで入り込んでいて、今は良くても時間が経つうちに腐ってしまいます。そういう事例が過去にもあった。長期的に考えると、信用を失うようなことはできません。今年のリンゴはもう廃棄する以外にないんです」とのこと。

この地で果樹農家を始めて20年近くになる本間さん。桃やブドウも栽培しておられますが、メインはリンゴ。毎年7月開催の「小布施見にマラソン」にはランナーへの応援として自家製リンゴジュースを提供してこられたそうです。また2017年に小布施で初開催されたスラックライン・ワールドカップをはじめ、その後のスラックライン大会にもリンゴジュースを提供。

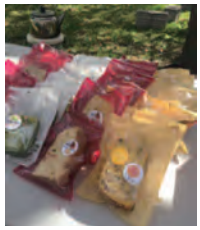
その縁もあって親しくなった林代表が、今回は「いつもお世話になっているから、今度は僕らが本間君を支えたい」と畑の復旧作業のお手伝いを申し出ました。「林さんが言うほど大したことはできていないんですが……」と本間さんは謙虚ですが、毎年の積み重ねがあって今日があるのだと思うと、平常時の暮らし方が問われるなあと思わずにいられません。「来年は、就農以来初めて、リンゴジュースが提供できなくなりそうで、それが残念です」。こういう本間さんのお人柄が、今日のご縁を引き寄せたのだ……と思いました。

「残念ではあるけれど、来年以降のことを考えたら今年のリンゴは廃棄しないと……」と本間さん。

「お茶タイム」は欠かせない！

晴天にも恵まれて排土作業は順調に進み、1時間余りで早くも目標の10本を楽々クリアしてしまったチームもありました。「泥の堆積10～15cmの畑で、1チーム5～6人で、1時間に10本救出。これくらいは行けそうだね」と林代表。また「今回参加してくれた人たちは次回から各チームでリーダーになっていってくれるとありがたい」とも。

さて、朝9時過ぎにスタートした作業は、10時30分に一旦休憩。「笑顔のホットステーション」のメンバーが、町内のマルテ珈琲焙煎所さん提供のホットコーヒー、長野市の「てんしのけーき」さん提供のシフォンケーキを用意し、スタンバイしてくれていた場所へ移動します。

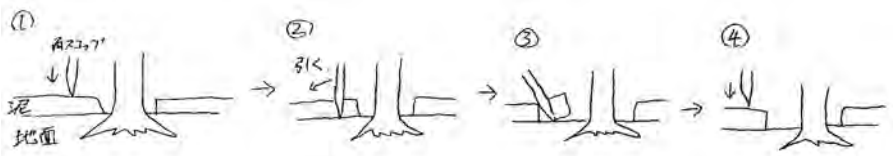


堤防へ戻ると真っ先に、衛生のため、手洗いと消毒を実施。まずポータブルタンクからの水で手を洗い、ペーパータオルで手を拭き、最後に除菌スプレーで消毒をしてもらいました。

いよいよお楽しみのおやつ。ボランティアさんからは、「おやつ嬉しい！　コーヒーおいしい！」との声。コンテナに座って食べる方や、食べ終わってシートの上に横になる方もおられ、しっかりと体を休めてもらいました。

このとき、みなさんには、「日本笑顔プロジェクト」の「笑顔お守り缶バッジ」をプレゼント。林代表と親しい高島勇夫さん(ジリリタ株式会社CEO)が地域の子どもたちと制作して販売、その売上の一部を被災地支援金とされているものです。

「お茶タイムが重要！」、これは日本笑顔プロジェクトの支援活動に欠かせない柱の一つ



①角スコップが止まるところ（地面）まで刺す。剣スコップだと地面に刺さりすぎて余計に掘ってしまうと思います。

②泥をはがすようにして角スコップを手前に引く。

③テコの原理で、そんなに力をかけなくてもはがれました。泥と地面との結合力は強くない感じでした。

④①の動作に戻ります。

手を洗い、消毒を済ませて、コーヒーとシフォンケーキを受け取り、桜並木の下でお茶タイムです。

です。中腰の姿勢でスコップや鍬を操りつづける排土作業は、なかなかの重労働。休憩をしっかり取ることも大切です。また休憩時間の会話でお互いに親しみが深まると、作業中も呼吸が合って、仕事がはかどります。

「笑顔のホットステーション」メンバーは「遠方から来ていただいている方もいれば、地元の方もいます。チームで作業に取り組んでいくこともあるため、この『お茶タイム』が少しでもコミュケーションを図る場、気分転換の場になればと願います。そして心も体も温かくなって、次の作業に行くモチベーションが上がっていただけると、私たちも嬉しい」と話します。

休憩時間の最後にはトイレタイムも忘れずに。本間さん宅へ軽トラで移動し、お手洗いを借用。全員が戻ると、ふたたび軽トラ3 台ほどに分乗して畑へ入りました。

大勢の思いがこもった昼食

11 時過ぎから再開した排土作業も順調。各チームそれぞれにコツをつかみながら、作業もリズミカルに進みました。

その間、「笑顔のホットステーション」メンバーは、昼食の手配とセッティングに奔走。当日の昼食は、町内外の食品メーカーさん、飲食店さんの協力のもとで準備を進めました。

おかずは唐揚げ（小布施町・蔵部さん提供）、ビタミンちくわの磯部揚げ、ミートボール（石井食品さん提供）、煮物、たくわんと盛りだくさん。磯辺揚げは、スギヨさん提供のビタミンちくわを、長野市のラーメン店、とん太郎さんが調理されたもの。煮物や漬物、そしておにぎりも、とん太郎さんのお心づくしです。

さらに、「信州土鍋ラーメン たけさん 小布施店」さんから、できたてアツアツのあんかけ焼きそばが。大鍋に入ったあんは人参、白菜、豚肉にカニカマ。彩りもよく、おいしそう。焼き色のついた焼きそばは、盛り付けしやすいように、1食分ごとにカットしてくださってありました。

12時すぎ、午前中の活動を終えたみなさんが帰還。手洗い・消毒をした後、手を拭いてもらいました。布タオルも用意していましたが、衛生面を考慮してペーパータオルを使用。

「笑顔のホットステーション」メンバーは、「お疲れさま」の気持ちをこめ、談笑しながらアツアツのあんかけ焼きそばを手渡しました。

座席はみなさんの動線を考えながらセッティング。一人ひとり、飲み物を持ってコンテナに腰掛けると、桜並木の木漏れ日がやわらかく注ぎます。お天気はいいけれど、風は冷たい。温かいあんかけ焼きそば、おにぎり、おかずは、おかわりのリクエストもあるくらい好評でした。

食事の間、林代表は作業の進捗を報告したり、励まして笑わせたり。寛いだ和やかな空気をつくることで、「笑顔のホットステーション」メンバーも、作業ボランティアのみなさんも、笑顔と感謝を共有できればと願って……。

食後は、みなさん談笑したり、シートで横になる人や、進捗について話したり、さまざまに休息をとっていただき、トイレに行く人は軽トラで往復しました。

「みんながお互いの状況を思いやり、不備なことがあればすぐ改善していくリズムがとても気持ちよく感じました」と、「笑顔のホットステーション」メンバー。

天候に応じて休憩所も工夫

午後の排土作業を終えて、リンゴの木120本の救出活動をコンプリート。ボランティアさん30人、作業時間3時間で、めざましい進捗ぶりでした。「最強スペシャルチーム結成作戦大成功！」と林代表。本間さんも「ありがとうございました。作業がスピーディーで本当に凄かったです。『ボランティアさんの行動力、半端ない！』と初めて思いました」と笑顔です。

14時からは、午後の「お茶タイム」。午前同様に手洗いと消毒をしてもらった後、マルテ珈琲さんのコーヒー、キッチンカーで駆けつけてくださった「スマイルツリー　プーティン専門店」さんのポテト、地元住民の方からいただいた漬物を食べながらの休憩です。

やや風もあり寒くなってきたため、できるだけ暖かい日なたに休憩場を設置。ポテトも揚げたてを提供してもらい、疲れている時間帯にもかかわらず、みなさん笑顔で召し上がっていました。

あんかけ焼きそば、おにぎり、おかずセットと盛りだくさんな昼食。長靴を履いたまま座れるコンテナを使って。

システムづくりなど、今後への課題

参加者の方々から、今回の活動で次のような点が良かったとコメントをいただきました。

・5～6人ずつのグループに分かれてやる作業はスピード感があった。
・最後に動力噴霧機でスコップや長靴を洗うことができた。
・時間配分やトイレ関係等しっかりとされており、安心して作業をすることができた。
・おやつや昼食がおいしくて感激！
・モチベーションを保つ工夫があり、とても楽しく活動をすることができた。

「ボランティアのみなさんが明るかった」「雰囲気が良かった」というお言葉もいただきました。これは日本笑顔プロジェクトがとても大切にしている点です。笑顔と感謝でボランティア活動を共にし、これをきっかけに結ばれたご縁が、お互いを支えあうような絆に発展していってくれれば本当に幸いです。

ご評価いただいた点をこれからの活動にも継承しながら、さらに改善を加えて、支援活動の充実を図っていきたいと思います。

最後に、今後に向けての改善点や課題を 挙げてみます。

1. 根の酸素補給が急務

本間さんのご経験に基づくお話や、今回の作業をふまえて見えてきたこと。

その1、根の酸素補給が真っ先に必要！

キッチンカーで到着、排土作業に、揚げたてポテト振る舞いにとご活躍された「スマイルツリープーティン専門店」さん。

その2、泥土の搬出は、根の救出と並行して進められればベスト。そこまで手が回らない場合でも、来春、スピードスプレーヤーが入るまでには搬出を終えたい。

その3、排水路の確保は、雨が多い季節ではないので、今の小布施ではあまり心配ない。

本間さんによると、厚さ15cm程度の泥土なら、養分が豊富なこともあり、このまま耕して農地に鋤きこんでも大丈夫。ただし30cmを超えるような堆積がある畑では、果樹の生育に悪影響を及ぼすほど栄養過多になってしまったり、泥土に異物が混ざっていたりということもあって、その場で栽培を続けるためには泥土の搬出が必要、とのことでした。

2. 作業のポイントを事前に確認

日本笑顔プロジェクト発行の排土マニュアルでは、排土の優先順位として、リンゴのなかでも苗木や若木・わい化樹を優先する、と記載していますが、作業開始前に口頭での説明を加えるとよさそう。

3. 体制・システムづくりが大勢での活動の要

以下は排土作業に参加された方の声。

「過酷な被災からの復興には『モチベーション』が重要。そのためには『仲間』『人足』が絶対必要です。一人や少人数だと心が折れます。大人数で集中してやることがいいと思いました。

また、参加者みんなが『笑顔』で活動できたら最高だと思います。その点で言えば、ボランティアが短時間でも自分の都合で支援活動に参加できる体制になっていれば、もっと大勢の人が参加しやすいんじゃないかなと思います。管理が大変ではありますが、そういった管理役の検討も含め、もう少し細かい仕組みになるといいのかなと思いました。」

4. 被災したリンゴは廃棄が原則

水や泥を被っても比較的状態が良く見えるリンゴの場合、なんとか活用したくなります。しかし品質を保証できない農産物が流通してしまうと、小布施や長野、ひいては長野県農業全体の信用を損なうことにもなりかねません。長期的・広域的な影響を考えると、やはり水害に遭ったリンゴはすべて廃棄することが妥当だと言えそうです。

千曲川沿岸の農地復興の取り組みは、始まったばかり。日本笑顔プロジェクトではより充実した農家支援活動に向けて、一人でも多くの人たちが、気持ちよく、安心して参加できるしくみをつくっていく予定です。

重機部隊は木島平村の米農家のみなさん。町内の外空創作室さんも重機を提供。

本間さん「循環型農業の始まり。」
林代表「このリンゴたちが来年収穫されるリンゴたちのパワーにつながると信じて！！」

見事なチームプレイで120本のリンゴの木を酸欠から救ったボランティアのみなさん。ありがとうございました！

＜支援金のおねがい＞

日本笑顔プロジェクトの活動はみなさまからの支援金のみで成り立っております。「笑顔の復活農園大作戦」では、重機やダンプの燃料資金が必要です。ご支援のほどを、なにとぞよろしくお願いいたします。

日本笑顔プロジェクト　代表　林映寿

八十二銀行（ハチジュウニギンコウ）
小布施（オブセ）支店（252）
口座番号　普通：2110038
口 座 名　日本笑顔プロジェクト
（ニホンエガオプロジェクト）
※口座番号に7桁の指定がある場合は、先頭部分に「0」を入力して、[0211038]としてください。

復興らーめん始めました！

国道18号線・アップルラインで水害に遭った**「とん太郎」**と**「蔵」**が力を合わせ、**コラボらーめん**をとん太郎で提供中！
12月末までの限定です！

笑顔トイレステーション誕生！

日本笑顔プロジェクトでは、ボランティアセンターや地区の会長様、家主の方々と調整を行い、長野市穂保地区・赤沼地区・津野地区に**「笑顔トイレステーション」**を設置！

農園復旧、ご相談ください！

水害被災した**果樹畑の復旧作業**をお手伝いします！ 農家のみなさん、ご相談ください！ ☎ **026-247-3924**（日本笑顔プロジェクト本部）

レポート制作にあたり、排土作業・炊き出しのボランティアのみなさんにご協力をいただきました。ありがとうございました。　写真提供：北風栄、岩月絢美、諏訪戸真理子、本間雅人（敬称略）